

この物語は、あなたのいる世界とは
少しだけ離れた空想の世界・・・。

光の粒子達のたわいも無い
日常の「こまのお話」・・・。

レッド「俺は、ブラックが・・・どうにも気にいらねえ・・・。」

「あいつはもうちょっと、愛想よくできんもん
かねえ・・・。」

オレンジ「わたしも・・・なんか嫌！

もうちよつとさ、優しさってやつが

足りないのよ、ブラックは・・・。」

「協調性とかもなさそうだし・・・。」

ホワイト「まってよ……どうして……？」

どうしてそんな「と」の……？」

もっと仲良くしようよ……？」

「……友達じゃないの……。」

イエロー「私も・・基本的にはホワイトに

賛成なんだけど、ブラックのほうがねえ・・」

「私の方は、仲良くしたいのよ。私の方は・・。

いつだって仲良くしたいオーラを出して

歩いてるんだから、問題ないはずなんだから。」

ブラック「まったく、よく飽きないなお前ら。

毎日・毎日ゾロゾロと集まって・・・」

「よっぽど・・・暇なんだろうな・・・。

お前らと一緒になんてこっちこそ

やってられるか・・・。」

ブルー「ちよつとまってよ・・

ホワイトもお前のためを思ってるんだぞ。
そんな言い方はないだろ。」

「ホワイトは・・お前と一緒にいたいんだよ。」

グリーン「う・うん、そうだよ・・みんな仲良くしようよ。

ケ・ケンカとかよくないよ。」

「へ・平和が・・い・一番だよ・・。」

ブラック 「そういうのがウザいんだよ。

別にいいじゃねえか、

ほっとけよ俺のことは・・・！」

「なんで・・・俺なんかになんかにかまうんだよ・・・。」

パール「・・・フム、彼の言い分にも一理ある。

他人は他人、自分は自分なのだから。」

「自分にしか理解できないことも

存在するのだろう。」

「そして・・・

嫌がることを押し付けるといふ行為は、

逆を言えばそいつこそ協調性を欠いた奴

ということになりそうだが・・・フム、複雑だな。」

「さて、皆はこの問題をどうとらえる？」

みんな「お前は・

あんたは、」

「黙ってる！」

「黙ってなさい！」

ホワイト「・・・みんな大なり小なり寂しいの・・・。

一人じゃ寂しいのよ。

だから一緒にいるの・・・。」

「他人だけど・・・

分かり合えるかどうかかわからないけど、
でも・・・一緒にいると暖かくなれるよ。」

「だから・・・。」



ホワイト「だから・・・

一緒に遊ぼう・・・。」

ブラック「・・・わ・分かったよ、遊べばいいんだろ。

別に俺は、お前らのこと嫌いってわけじゃ

ないんだからさ・・・、

いいよ・・・あ、遊んでやるよ。」

ホワイト「やったあ！じゃ今日は、かくれんぼしよう。

ブラック君はもちろん鬼ね。」

ブラック「え？・・・ああ・・・いいけど。」

ホワイト「わーい、隠れるわよおー。」

“おしまい”

ブラック君とホワイト君

<http://p.booklog.jp/book/23165>

著者 : niwatsukino

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/niwatsukino/profile>

発行所 : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/23165>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/23165>